

<p>全体講評： 典型問題を中心に構成されているが、演習量の差がそのまま得点の差に結び付きそうなセットである。比較的方针の立ちやすい問 1, 問 2 で点数を重ね、問 4 で丁寧に設定を確認しながら計算、最後に時間をかけて問 3 に取り組む、という構図であろうか。ⅡB を中心に構成されているので必然的に計算量は多くなる。正確な計算力も必須となるだろう。</p>		<p>試験時間</p> <p>120 分</p>		
		<p>難易変化</p> <p>易化 / 昨年並 / 難化</p>		
		<p>分量変化</p> <p>減少 / 昨年並 / 増加</p>		
大問	区分	内容	講評	レベル
問 1	数Ⅱ	微分法	条件を正確に表現できれば、誘導に従って計算していくのみ。相加平均相乗平均は式の形から判断したいところ。	★
問 2	数Ⅱ 数 B	漸化式 指数・対数	漸化式から一般項、その後は常用対数の応用問題。最高位の数字は文系数学では難しい内容ではあるが、マスターしたい。	★
問 3	数 B	空間座標	条件のとらえ方で差がつく問題。苦手な受験生が多い『軌跡』の知識も必要なため、試験場では混乱した学生も多いと思う。	★★
問 4	数 A	確率	設定は共通テストと同等のレベル。しかし、誘導がない分 (2) をどう解くかで差がつきそう。余事象に結び付けられれば、かなり時間は短縮できる。	★
<p>学習指針： 極端な難問はないが、容易に答えが出せる問題ばかりでもない。前述のとおりⅡB からの出題が多いため、正確な計算力と典型問題の習得が必須となる。平面や空間座標の問題も多く、単元がまたがる問題も見受けられるので、特別な練習も必要になるだろう。各分野の典型的な問題はひと通り習熟しておき、解答時間の節約につなげたい。</p>			<p>※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。</p> <p>※ レベル表示は次の区分になります。</p> <p>難 → ★★★</p> <p>やや難 → ★★</p> <p>標準 → ★</p> <p>やや易 → (無表示)</p> <p>易 → (無表示)</p>	